

寄付金を産科病院へ

加藤玲子

キューバ友好円卓会議事務局／キューバに自転車を送る会



筆者

サンタ・クララ市のマリアナ・グラハレス産科病院へ、寄付金 800 万円を届けました。「キューバに自転車を送る会」の会員の方が、キューバの皆さんに使ってほしいと送金してくださったものです。優先順位があるでしょうから、ご自由に使ってくださいとのことでした。(右の「お手紙」参照)

大金ですし、この御厚意に応えるためには、どのように使われたかしっかりとご報告したいと思い、ビジャ・クララ州 I C A P (諸国民友好協会) や友人に相談し、年間平均 6000 人の赤ちゃんが誕生するというこの産科病院の設備環境改善プロジェクトに寄付することに決めました。

お母さんたちのケアや赤ちゃんたちの幸せのためにお金が使われることになり、寄贈者の方にも喜んでいただきました。

さて次は、このお金をどのようにキューバに届けるかが問題でした。大使館に相談したところ、そんな大金は持って入れないと言われてしまい、振込先口座を問い合わせても、なかなか返事をもらえませんでした。出発直前に、この機会を逃してはいけない、現金で持って行く！ と決意しました。

今回の訪問団の参加者は 21 名でしたので、ほぼ全員の方に分配して持って行ってもらいました。皆さんのおかげで無事に役目を果たすことが出来ました。産科病院では、贈呈式の準備を整えて待っていてくれました。

今後キューバ訪問の際には、この病院を訪ね、関係を深めていきたいと思っています。

寄付金のお手紙

先日は、わざわざキューバ大使館のハリケーン義援金の領収書を有難うございました。

最近、たまたま思わぬ事から大きなお金が手に入りました。私としては予想外の事でしたのでいろいろ考えましたが、もう 70 代半ばになって欲しい物は一つありませんし、残すべき家族も居りませんので、キューバの皆さんに使って頂く事が一番良いと考えました。

いつぞやもテレビで、世界遺産の修復に汗を流している青年の姿を映しておりましたが、そういう事に使って頂いてもいいですし、他の事に使って頂いても構いません。優先順位がおありでしょうからご自由にお使いください。

このお金は、言ってみれば不労所得で、私が汗水たらして貯めたお金ではありませんので、くれぐれもお気になさらないでください。本日 800 万円を振り込みました。

2013 年 8 月 26 日 キューバに自転車を送る会会員(匿名)

キューバの皆さんへ

私は 1960 年頃、キューバ革命の本を読んでカストロさんに出会い深い感動を覚えた人間です。

日本の新聞には殆んどキューバの記事は載りませんが、その時以来、キューバはとでも気になる国になりました。

他国の多くの指導者が晩節を汚してゆく中で、カストロさんは常に変わらず、弱い立場の人々のために闘う姿勢を貫いています。そこには、まったく私利私欲がありません。

戦争にしても自然破壊にしても、つきつめると人間の欲がなせる業だと私は思います。

教育と医療という人間にとって一番大切な事を全ての国民が平等に受けられるキューバ。お金ではなく何よりも人間の尊厳と自然を大切にしているキューバは世界のお手本だと思います。

キューバの皆さんは米国の経済封鎖で厳しい生活を強いられていると思うのですが、どうか負けないで下さい。

キューバは私にとって希望の星なのです。

2014 年 2 月 16 日 キューバに自転車を送る会会員(匿名)

円卓会議からの贈呈品と贈呈先(一部を紹介)

贈呈品	贈呈先
血圧計	サンチャゴ・デ・クーバ ポリクリニコ サンタ・クララ 医学校
デジタルカメラ	サンチャゴ・デ・クーバ ICAP サンクトスピリティス ICAP ハバナ ICAP サンタ・クララ ICAP
メモリーカード	サンチャゴ・デ・クーバ ICAP サンクトスピリティス ICAP
USB メモリー	ラテンアメリカ医学校
ポケットラジオ	グアンタナモ ICAP
タブレット	ラテンアメリカ医学校
懐中電灯	グアンタナモ 有機農園
千代紙、鉛筆、色鉛筆、クレヨン、ノート	サンチャゴ・デ・クーバ 小学校
SD カード	ハバナ ICAP サンタ・クララ ICAP

BOOK 『キューバ医療の現場を見る』

キューバ友好円卓会議編／1600 円＋税

【申込先】 同時代社 TEL : 03-3261-3149 FAX : 03-3261-3237

大賀達雄 キューバ友好円卓会議事務局長

日本では、キューバの医療については、ほとんど紹介されていない。キューバは、医療や教育に力を入れ、国民に無料で提供する体制を作っている。

キューバを長年支援してきたソビエトの崩壊後、国民の生活がどん底になった時でも、医療や教育の体制を維持し、途上国への医療支援や医学教育への提供を行なっている。こんなキューバの医療の現状を見てみたいと思って、キューバに関心を持つようになって随分時がたつ。

今回出版したキューバ友好円卓会議編集の本書は、2008 年 2 月円卓会議主催の「キューバ医療ツアー」の現地報告を中心に、医療制度や医療支援の現状がまとめられている。執筆者は、総勢 35 人からなる訪問団の中の 8 人の医療関係者によるものである。

キューバの医療・保健は地域の住民が利用できる身近なコミュニティから地区へと繋がる合理的なシステムが構築されているばかりか、それを支える人的資源にも恵まれており、優れて機能的と思われる。精神医療においても、精神障害者を入院病棟ではなく、地域の保健センターを多数作って、出来るだけ入院をさせない方針で、地域ケアに力を入れている。

少しでも多くの方に、キューバの医療、教育に目を向けてもらいたいと思っている。それはまた、日本の医療、教育に対する関心を喚起するものでもあると思うからである。

